

備後国^{えそ}恵蘇郡^{ひわ}比和町^{あらき} 荒木家文書 仮目録

広島県立文書館

平成 28 年 (2016) 6 月

凡 例

1 本目録には、備後国恵蘇郡比和町 荒木家文書を掲載した。

2 目録の各項目は次のとおり。

請求記号 本文書群の群番号は (200810) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 → 200810/1

表 題 資料に原表題のあるものはそのまま採り、内容等で補記すべきものがあれば () で補った。

年 代 資料に記された作成年月日を探った。推測または補足した場合は () 書きで表記した。

作 成 資料に授受関係のあるものは→で結んで表記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

備 考 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

3 文書の配列は請求記号順とした。

4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

【文書群概要】

備後国^{えそ}恵蘇郡^{ひわ}比和町 荒木家文書（請求記号 200810）

「開化用文章」写本及び鉄問屋関係文書。

出 所 荒木家

出所地名 備後国恵蘇郡比和町／広島県庄原市比和町比和〔現在地名〕

分 量 1点（1冊）

収蔵までの経緯 比和町比和の荒木家で保存されていたが、所蔵者が死去したため、平成 21 年（2009）3 月 28 日、県立広島大学庄原キャンパスの事務員を通じて寄贈された。

年 代 天保～明治年間

歴 史 昔鉄問屋をしていたと寄贈者が聞いたことがある。屋号は「河内屋」。

内 容 表題に「開化用文章」と墨書された文書。明治 12 年に刊行された往来物（檜崎隆存作）を筆写したものだが、その前半に、往来物とは異質の天保 7～14 年（1836～1843）の「鉄問屋河内屋民兵衛」の名前が見える鉄問屋関係文書が写されている。鉄で潤ってきた比和町が、近年は鉄値段が下落して難渋しているといった、当時の比和町の様子が語られている資料も含む。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

（2016.6.30 記述／西村 晃）

200810／1

開化用文章(及び鉄問屋関係文書)

(天保～明治)

ヒハ 本荒木

横半・1冊

後半は明治12年に刊行された往来物「開化用文章」(榎崎隆存作)の写本, 前半は「鉄問屋河内屋民兵衛」の名前が見える天保7～14年(1836～1843)の鉄問屋関係文書
